

第4回 十勝川流域委員会 議事要旨

日時:平成20年9月25日(水)13:00~16:10

場所:とち館 鳳凰の間

出席者:加賀屋委員長、石原委員、泉委員、黒木委員、佐々木委員、藤巻委員、
眞山委員、丸山委員、山崎委員 計9名

議事要旨

1. 議題

(1)十勝川下流域、浦幌十勝川について

十勝川下流域、浦幌十勝川について事務局から説明し、以下の質疑応答があった。

(委員)

- ・ 十勝川下流部の浚渫では、シシャモの産卵床への影響が懸念されるが、どのような配慮を行っていたのか。他の河川の事例では、河床部分には手をつけず、平水位以上の陸上掘削としている場合が多い。
- ・ 通常、シシャモは浅瀬に産卵するが、十勝川下流部のシシャモの産卵床は水深が 2~3m の深いところにあり、ほとんど見えないところで産卵していることから、シシャモの産卵に対する影響がよく分からなかった可能性がある。
- ・ シシャモの産卵床への配慮としては、河床の保全が重要である。浚渫後のモニタリング等も行われているのか、説明していただきたい。

(事務局)

- ・ シシャモの産卵床の保全については、工事の中で検討しており、工事前に漁業関係者と調整を図り、水深 2m 程度の河床の確保、河岸の緩傾斜化、事前事後の調査の実施等、かなり注意深く工事と調査を行っている。

(委員)

- ・ 平成 8 年の十勝圏河川整備構想懇談会において、姉別川上流には大規模な牧場があり、ここから牛の糞尿が川に流れ込み、川を汚していることが議論となった。現在は、どのような状況にあるのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ ご指摘のような問題を受けて、平成 11 年に家畜排せつ物法が制定された。この法律により、家畜排せつ物を取り扱う施設の構造に関する基準や、排せつ物の管理に関する基準等が定められている。このため、家畜排せつ物が川に流れ込んでいる状況は改善されていると考えている。

(委員)

- ・ 十勝川の下流域は、地震・津波・洪水の被害が多い地域であるが、災害時に自分の身は自分で守るという考え方が不足している現状がある。今後、災害に関する情報提供の方法等、ソフト対策をどのように行っていくかが重要である。

(委員)

- ・ 下頃辺川については、AGS 工法が紹介されているが、礼作別付近でもビオトープを実施した事例があるので、これについても触れて欲しい。また、十勝川下流部は堤外地

もタンチョウの営巣地や採餌場に利用されており、非常に重要である。

- ・ 堤防整備に必要な土砂を高水敷から採取する際に、採取跡にアンジュレーションを持たせて池が形成されるようにして、多様性のある環境が創出された事例がある。このような方法についても検討していただきたい。

(委員)

- ・ 浚渫を行って洪水水位を低下させたにも関わらず、近年、内水被害が頻発している理由について説明していただきたい。
- ・ 流量規模の大きい浦幌川が北海道管理で、流量規模の小さい下頃辺川が直轄管理となっている。流量規模の小さい下頃辺川が直轄管理となった経緯、浦幌川の現況について、説明していただきたい。

(事務局)

- ・ 次回の委員会で説明する。

(委員)

- ・ 浦幌十勝川では、過去に河口閉塞が発生しているとのあるが、水位が上がれば自然にフラッシュされるのではないだろうか。具体的にはどのような被害があるのか説明していただきたい。

(事務局)

- ・ 河口閉塞の被害については、流量が大きければフラッシュされるが、平常時の河口閉塞では地下水水位等が上がり、当時、農地や住居のむろの浸水等の被害があったことから、地域からの要望により、浦幌十勝導水路事業に着手している。

(委員)

- ・ 堤防の耐震化については、個別箇所の災害復旧としてではなく、長期的なスパンで、計画的に進めるべきである。

(委員)

- ・ 資料に目標流量を安全に流下させるとあるが、ここでいう安全とはどのような概念として定義しているのかを説明していただきたい。異常降雨により、既往最大流量以下でも洪水被害が発生しているが、このような状況を踏まえているのか。

(事務局)

- ・ ここでは、今回の整備計画において定める目標流量が流れてきた際に、計画高水位以下で流下させることができる状態、つまり外水被害に対して安全な状態を安全と表現している。

(委員)

- ・ 豊頃、浦幌周辺は、湖沼が点在し、多くの動植物が生息・生育しており、このような場所も重要である。

(2) 利別川について

利別川について事務局から説明し、以下の質疑応答があった。

(委員)

- ・ 砂州に植生が付き、砂州が固定化した場合には、洪水疎通能力に影響を与えるおそ

れがある。砂州に限らず、河道内の植生をどういふスタンスで保全するのか、説明していただきたい。

(事務局)

- ・ 河道内の植生については、その地点における現況の流下能力、環境の状況等を勘案して、ケースバイケースで対応する。掘削が必要な場合は、樹木を伐採することもある。また、一律に伐採すると、河畔林がヤナギ化してしまうおそれもあり、今後は河畔林の質を踏まえた樹木管理を考えていく必要がある。

(委員)

- ・ 樹木のない砂州が必ずしも悪い環境と言うことではない。そういう環境の存在が多様性につながる。

(委員)

- ・ 利別川の河道への配分流量そのものについて議論させて欲しい。第2回流域委員会で、河川整備計画の流量配分の説明があったが、河川整備基本方針で想定している洪水調節施設の説明がされていない。河川整備基本方針では茂岩地点で $1,500\text{m}^3/\text{s}$ を調節するとあるが、これについては、利別川流域が有力候補地と考えられる。利別川の補助区間では、早急に $2,000\text{m}^3/\text{s}$ を流下可能な河道整備が必要とされているが、河道整備と洪水調節施設の投資の順序について、経済性や社会情勢等の比較も含め、説明していただきたい。
- ・ 利別川補助区間の目標流量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ は、昭和 37 年洪水における戦後最大流量と認識しているが、その流量は実績流量なのか、それとも氾濫戻し流量なのか。補助区間での過去の洪水被害等とあわせて説明していただきたい。
- ・ 流域の森林によるプラスの効果、上流部からの土砂流出によるマイナス効果等を含め、流域連携について考慮すべき。
- ・ 洪水対策の整備内容を検討する際には複数の案について、優先順位だけではなく、それぞれの整備による効果、社会的影響等のプラス面マイナス面も整理して議論すべき。

(事務局)

- ・ 河川整備基本方針では、洪水調節施設を位置づけている。洪水調節施設の整備には時間がかかるため、早急な整備を必要とする補助区間の実情を踏まえると、早急に効果が発現する河道掘削を、整備計画で位置づけたいと考えている。
- ・ 利別川流域は、河川整備基本方針で想定している洪水調節施設の候補地の一つとして考えられる。今後 30 年程度の整備期間の中で、色々な要素を考えて河道掘削を優先的に実施すると考えているが、次回、整備計画のメニュー提示の時に、改めて説明する。

(委員)

- ・ 利別川のショウドウツバメのコロニーは非常に大規模で、かつ箇所数が多いので、これについても触れて欲しい。

(委員)

- ・ 音更川からの流域変更によって、洪水時に利別川流域に負荷がかかっていないか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 上流の発電ダム群には洪水調節機能はないが、出水時の操作規則について調査し、

次回説明したい。

(委員)

- ・ 利別地点における流量の日変動の $44\text{m}^3/\text{s}$ については、注目しておくべきなのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 利別地点では、流量の変動による水位差では約 25cm となる。また、水面幅の差については、河道断面が箱形であることからごくわずかとなる。今のところ、地元から改善等の要望もないため、今は特に問題がないと考えているが、植生等への影響も懸念されるため、注視していきたい。

(委員)

- ・ 河道内の植生については、ケースバイケースで対応するとのことであるが、具体的に環境面をどのように保障するのか説明していただきたい。生物環境には具体的な数値等がないため、懸念している。
- ・ 環境保全委員会などを設置して、環境について検討している例が他河川ではないのか、教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 流下能力不足でどうしても河道掘削しなくてはならない場合においても、河畔林の種類に着目し、連続性を保つなど、生物環境に配慮していきたい。
- ・ 整備計画では、着目すべき環境要素などを踏まえた上で、環境についても大きな目標を掲げたいと考えている。具体的な対策については、河道掘削の考え方等を示していくが、それを全てに適用することは難しく、ケースバイケースの対応となる場合もある。
- ・ 他河川の委員会の事例としては、例えば、シシャモが生息する河川では、整備計画策定後に別途委員会において検討している事例がある。

(3)全般について

全般について、以下の質疑応答があった。

(委員)

- ・ 今、観光時代であるが、これだけ洪水被害に遭いながらも、川というのは資源なんだという認識が根底にある。昨今、川を歴史的かつ文化的に、昔のように戻していったらどうだという声がある。かつて川とともに生きていた先祖から考えると、我々は川からも川の文化からも離れた。川祭りの時に昔の船を利用して、かつての歴史・文化を蘇らせることも、今であればこそ必要なのではないか。

(事務局)

- ・ 十勝川や地域の歴史を十分踏まえた上で、河川整備について考えていきたい。

(委員)

- ・ 流域委員会の中で、維持管理、協働、予算についてほとんど議論されていない。
- ・ 国民の目線からみると、経済性の話はどうかという疑問がある。5年ごとの事業再評価では、流域委員会がその代替になっており、経済性の話について説明していただきたい。

(事務局)

- ・ 予算、投資の妥当性については、次回説明する予定。今回は、各河川の現状と課題、宿題を踏まえ、全体を通して再説明・補足説明し、次に、その現状を踏まえ、具体的な整備計画の中身(メニュー)を説明したいと考えている。

(委員)

- ・ 地域住民を巻き込み、その考えを反映させることが重要である。住民に意見を聞くとあるが、その位置づけやフィードバックの方法について教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 河川整備計画原案については、当委員会に提示し、意見をいただくことになる。同時に関係住民に対しても原案を示し、意見を聞いた上で、それらを踏まえ整備計画の案を作成することになる。

以上